

平成29年度 自己評価書

学校名	和歌山市立 東和中 学校
校長氏名	山 本 均
作成日	平成30年 2月13日

1 教育目標

人権尊重の精神を全教育活動の基盤にした、心豊かな人間性と確かな学力、たくましく生きる力を持った生徒の育成

2 本年度の取組についての評価

	開かれた学校	ゆたかな心	確かな学力	小中連携
重点目標 【P】	・情報を積極的に発信する。 ・学校開放週間を充実させ、地域各種団体等との連携を図る。 ・地域の教育資源や人材を活用する。 ・保護者との信頼関係を強化する。	・教師と生徒、生徒同士の人間関係作りに努める。 ・きめ細かい生徒指導に心掛け、体制の充実を図る。 ・道徳の時間の指導を充実させる。 ・人権・同和教育を推進し、人権意識を高める。	・基礎基本のより一層の定着を推進する。 ・学力課題を明確にし指導方法の工夫改善のための研修を深める。 ・職場体験活動を推進し、主体的に将来の生き方を考え、進路選択ができるようにする。 ・特別支援教育を充実させる。	・小中学校の教職員が、学力や指導方法についての共通した考え方に基つき、系統的、継続・発展性のある教育活動の展開を進める。 ・小中の教員相互による授業を充実させる。 ・学校行事の交流(体育的行事、文化的行事)を進める。

取組の状況 【D】	・PTA総会時の授業参観だけでなく、学校開放月間等にも保護者や地域に「学び合いの授業づくり」として公開授業を実施し、授業参観を呼びかけた。 ・合唱コンクール、職場体験活動、体育的行事(東和スマイルカップ)、学校美化活動等の行事を保護者・地域に呼びかけ、理解と協力・参加を得て、学校と地域が一体となった活動ができている。 ・各種団体との懇談会を年間3回実施できた。 ・学校便り・学年便りを発行し、多くの情報を発信できた。 ・学校のホームページを随時更新しながら学校の情報を公開できている。 ・総合的な学習の時間、道徳等において積極的に地域等の人材を活用できた。 ・気になる生徒の状況等について、きめ細かく家庭連絡を行えている。	・「チャイムで授業を始めましょう」を教員目標として取り組んだ。 ・教育相談の機会を利用したり、授業時、昼食時、清掃時、部活動時等の場を活用して、生徒理解に努めた。 ・落ち着いた1日の始まりと豊かな感性と考える力を育むために「朝の読書活動」に取り組んでいる。 ・道徳教育の全体計画と道徳の時間の年間計画を作成し実行できている。 ・人権・同和学習に組織的・計画的に取り組めた。 ・生徒指導委員会や学年会で気になる生徒の情報交換をきめ細かく行い、対策の共通理解を図れた。 ・生徒会を中心に定期的に「朝のあいさつ運動」に取り組んでいる。 ・全員清掃に取り組むことにより他人を思いやる心や物を大切にすることを育もうとしている。	・全国学力・学習状況調査の結果を分析し課題を明確にし、授業改善を進めることができた。 ・教員の実践的指導力の向上(授業改善)と学力向上をめざし、「学び合いの授業づくり」を推進し校内研修を活性化させることができた。 ・「朝の読書活動」を学校全体で年間通して取り組み、集中力や読解力・国語力の向上をめざせた。 ・家庭学習の習慣を身につけさせるため毎日の宿題の取組を進めることができた。 ・将来の進路選択ができるよう、情報提供も含め、きめ細かい指導を行えた。 ・職業調べ、職場体験等では体験活動を取り入れ進路に関わる学習を行えた。 ・特別支援教育に係る教員の研修の実施や個別の指導計画の作成ができている。	・職員交互の授業参観や合同職員研修を実施することにより指導法の工夫を図れた。 ・外国語活動の授業を小学校で、数学の授業を中学校で行うために、それぞれの教員が兼務し交流を図れている。 ・社会科で参観授業による小中の交流を行えた。 ・行事や部活動等を通して小中の交流はできていない。 ・小中の教員が合同で人権・同和教育の連絡会を開催できている。 ・小中職員相互により児童と生徒に係る情報の交換を積極的行えた。 ・「東和便り」を通して小中連携教育の広報活動に努めた。
--------------	--	---	---	--

(評価結果【C】)	・授業参観や学校行事等は、「学校便り」やHPにて保護者及び地域に広く呼びかけている。行事への参加、観覧は多いが、授業の参観者が少なく、課題である。 ・体育的行事「東和中スマイルカップ」には多くの保護者の観覧・応援があった。また、合唱コンクールでは、生徒の発表だけでなく地域の公民館活動の展示もあり、多くの来校者があった。 ・「宮前地区子どもを育てる会」を本校を拠点として年間3回実施している。校区内の子どもの健全育成や地域の教育力向上のため活発な意見交換ができており、学校の情報公開の場としても機能できている。 ・「学年便り」、「学校便り」及び随時更新するHPにより学校の情報を広く公開できている。 ・総合的な学習の時間や道徳の時間等において地域の人材を活用した特設授業の実施ができた。	・「チャイムで授業を始めましょう」の実践は意識して取り組めている。 ・教育相談のみならず、昼食時や清掃時等を生徒と共に過ごすことにより、生徒理解に努めるようにした。さらに、学年会や生徒指導委員での情報交換により個々の生徒に対する共通理解を図っている。 ・生徒会による「朝のあいさつ運動」、教員による毎朝のあいさつ運動、月に1度PTA役員の協力による「笑顔でおはよう運動」を通し、生徒のみならず地域の方々や小学生とも気持ちよく挨拶を交わすことができている。 ・「朝の読書活動」も定着し、落ち着いた雰囲気の中で1日のスタートが切れている。 ・道徳の時間を確保し学年の実態に応じて組織的に取り組めている。 ・人権同和の学習に組織的計画的に取り組めており、生徒の人権意識も高い。	・「学び合いの授業づくり」の推進のため研究授業・協議会及び公開授業に取り組めた。 ・「学び合いの授業づくり」の取組の検証のため「学習(授業)アンケート」を年間2回実施(教員・生徒)し、取組状況の確認ができています。 ・「朝読アンケート」結果より、集中力や国語力の向上がみられることがわかった。 ・宿題の取り組みについては、学年全体で取り組めた。 ・進路指導については、各学年で計画的に、きめ細かく指導できている。 ・職場体験活動では、非常に貴重な体験ができ、将来の進路選択の一助となった。 ・支援が必要な生徒については、チェックリストをもとに分析でき、指導支援の助けとすることができた。	・小中の社会科教員の相互の授業参観、全ての小中教員相互の身分制度学習の授業参観による交流ができています。 ・小中の教員が合同で人権同和教育の連絡会を実施しているため、ブロック人権教育研究会等でスムーズな運営ができています。 ・中学校教員が小学校へ、小学校教員が中学校へ、それぞれ兼務して教科指導を行っている。 ・合唱コンクールが平日開催になったため、小学生の参観者がなかったが、今年も朝鮮初中級学校との交流ができた。 ・小中同一のスクールカウンセラーではなかったため、小学校の情報が不足している。 ・「東和便り」を小学6年生に配布できず、中学校の取組や活動状況の広報ができなかった。
改善方法【A】	・「学び合いの授業づくり」の取組を保護者や地域に周知し、多くの保護者が参観したいと思えるような公開授業の実施に努める。 ・体育的行事「東和中スマイルカップ」、文化的行事「合唱コンクール」をより充実させる。 ・多くの保護者や地域の方々の来校を促すために、生徒が主体性を持って取り組む行事運営を実施する。 ・「宮前っ子 子育てプラン」のポスターをより良いものにし、地域の子どものいる全家庭	・教員目標である「チャイムで授業を始めましょう」を常に意識して取り組む。 ・「朝のあいさつ運動」だけでなく、日常生活の中での生徒相互及び生徒と教員の自然な挨拶ができるように心がける。 ・「朝の読書活動」のさらなる充実のために、教員の意識向上に努める。 ・道徳の時間の研修や読み物資料等の充実を図るなど教材の開発や指導方法の工夫改善及び実践をする。	・「学び合いの授業づくり」と「授業づくりの5ポイント」の実践を推進させるために教員相互の授業参観の機会を増やし、授業改善や授業力向上についての協議を充実させ、学校全体のものとしていく。 ・「朝の読書活動」、宿題の取組、授業改善については引き続きアンケートの結果を検証し、課題と改善策を明らかにしていく。 ・発達障害についての研修を深め、具体的な支援の方法について検討し、共通理解を図りながら指導に当たる。	・児童生徒に関する情報交換を積極的に進め、生徒理解や生徒指導に反映させていく。 ・児童会と生徒会の交流ができていない。次年度に向けての課題である。 ・小中連携で行事やPTA活動を行えるような工夫が必要である。

3 その他の課題

① 生徒指導の充実 ・積極的な生徒指導(授業改善、読書活動の充実、道徳の時間の充実、生徒が主体的に取り組める行事の工夫等)に取り組む。 ・生徒理解に努め、教師と生徒・保護者との信頼関係を築き、全ての教育活動を通してきめ細かな関わりをする。 ・全教職員の協力、共通理解のもと、一貫した指導を行うため、報告・連絡・相談・確認を密にし、指導に当たる。 ・問題行動には、素早く、機敏に、チームで対応を合い言葉に取り組む。 ・地域及び関係機関との連絡を密にとりながら健全育成、生徒の見守りに努める。 ② その他 ・通常の学級に在籍する支援が必要な生徒への指導や支援の方策の検討していく。 ・情報セキュリティの維持・向上、ポリシーの周知徹底、緊急時の対応等、具体的な取り組みを進めていく。
